

「談合排除だけで
公共調達に目的は
達せられない」

談合問題を背景に全国知事会がまとめた「公共調達改革に関する指針」を受け、都道府県において一般競争入札や総合評価落札方式の導入・拡大の動きが加速しようとしている。だが、一般競争や総合評価を上げるだけで公共調達は適正化し、公正な競争が担保されるのか。談合問題の震源地の一つでもある和歌山県で公共調達検討委員会の委員長を務め、独自の視点で公共調達改革の方向性を打ち出した経路橋横浜大学の郷原信郎（こうはらのぶ）氏に話を聞いた。

——知事会の指針をい
て評価しているのか。

「選挙が片付いた後でいい。お
まの意向に任せておいてくだ
さい。生じうる政治事件で知事
らの職務が相対的に大おおた作
りださないうへに、今期選挙を速く
やる必要が十分に感じられて
います。政治を辞すれば、すべ
たの目的が達せられるわけでは
ない。今期選挙を速に、今正
選挙を速にするための手段に
必要はない」

[illegible]

—だが、一般競争や
総合評価が拡大しようとい
っている。

「知事会も指針が示され、これだけフォローアップできれば、『やりません』といつねにばりかない。形だけでも結果を添えよう」といふに一般競争を拡大した。『競合状態を誘入した』といふ話になるのだが、それで改革を行つたと言ふのか――

「和歌」界には、ある程度、格



以降は小泉総理によって公平税制
 が創られ、税制はずうとが公平だ。
 何と云ふ迄でも簡単に理解し、業者
 全体が生き延びて貰ふ、云々とな
 る憲法を破壊しや生半端な御成で
 随時任に押し、敢て云々云々が崩
 壊して一気になつて云々を生じ始め
 る。現在では随時生じ始めたらしく
 取戻して正常な状態に戻るものな
 りといふ。随時状態の中で度から
 ぬ業者が生きてゐるに云々といふ
 わけがねえ。皆死んでゐると云々
 随時死つてゐると云々生きている

和歌山県では品質・技術・価格と
いう価値をぐーとバ、アウタル
フとして生産している企業
が徐々に増えてきていると考えた。
具体的には、社会の要請に応える
製品でコナラアウタルを達成し
ている企業が、アウタル価値を確
かなものにしよう。例えば、産廃
処理を含めた廃棄物問題への対応
や、災害復旧への対応は耐え不
コナラアウタルと評価する」

「(秋田山の報告書では)地域
要件をどうするかも課題だった。
一般競争を拡大するのであれば
当然、地域要件も解消していく
が、一紙はなとしてしまつて
混乱が生じる可能性がある。ある
程度段階的に解消していく措置が
必要だ。地域要件の解消と一般競
争の導入は、条議を合わせて行っ
ていきたいと考えている」

——公共調達法について
をめぐって。

[illegible]

——株式會社の入札
と、その結果を報告する。

「最終的には、今事業に国民が何を期待しているかを基本に、公共事業を考へなくてはならぬ。安んじたい社会資本をいつまでもつづけていくのは、一時的なもので、公共事業は雇用確保や地域経済の振興の役割が大きいからだ。今事業に何を要請しているかを明確にし、それを要請するものはどこに集まるか、どこに投じてやるべきかだ」

「師匠出では、言葉遣を繕つた儘を返すのさまだを打打出しだ。藝妓業界にはくーべーとか、うへー人親方おもしろい、いへうまうまといふて腹もたまはらない。うううわけは不明だが、その腹は腹かたれするだらうぜ。因うううの裏手から腹からと腹がこね縮むぜ。このだらうううわけはするが、技藝者こそであるからして、腹をさへ絞める道が嫌ひで、上座ううに上れる前座殺しにだ。」

「一方で、成長とは関係ない、

「建前でなく、本音ベースで地域の公共工事をどう発注するかを考えなければならない。現在は、談合排除を行っただけの責任回避になってしまっている」

「是日、國家の對外關係の
重要なる一問題の如何とな
るに依るを得。故にこの日、
人々は、皆正装して、この
會に社會の要人にぞくひ
り、神聖なことを敬慕する
たを待たりしなり。」といふ
なり。基本的な決定の如何と
するの點から争ひあつたため
が、非難に足らぬや。世間の
評判よりいへば、この會議は
もはやつたものと見てゐる。
だが、重刊したものでない。

◇-----◇

コナツナツナは縁の国を
取ったコナは、8月にコナ
ナツナ、コナ、コナ、コナ、コナ、
コナ（電話03-5491-311
2）から電話した。16歳で上
下国は5月5000円（税別）
の予定。

郷原信郎氏に聞く

桐蔭横浜大学 法科大学院
コンプライアンス研究センター長

間断的な考え方の中で戦争の基礎を論議しながら一般戦争に至るといって終えるという考え方から（当面は）5000万円以上を一般戦争の対価とす。（「1000万円以上の事については『原則一般戦争とする』のが指針の考え方だが、一般戦争の範囲を拡大すること自体に意味があるわけではない。範囲を拡大しなければかつ一般戦争が公正に行える基礎を築いたことに意味がある」

——和歌山県の報告書
の特徵は。

「公共調達の問題を過去、現在、
未来の視点で考えた点だ。00年代

き業者が、公共工事を受注できるシステムを考えていかなければならない。それが和歌山県の報告書の基本コンセプトだ――

[illegible]

「本来、公平正事をめぐる競争であれば、品質、技術、価格の相関関係で勝負を決めるべきだが、本道にそつた観点だけで競争がうまくいくかどうかというところに根本の問題がある。供給過剰の異常な状況で競争が激化し、加えて経営者が十分な評価能力を持たない。すれば競争が健全な競争にならない。」

地域の合意で中小零細の共同受注も

生き残るべき業者を
コンプライアンス評価